

1.1. 追跡調査の概要

本校SSH事業も2004年度から18年が経過した。この中で、SSH事業の主対象である理数科の専門学科である総合理学科を開設し、今年度まで1期生(62回生)から12期生(73回生)が卒業した。卒業生の中には大学院修士課程さらには博士課程へ進学し卒業しPh.D.(博士号)を取得するものを輩出している。また、社会人として活躍する者も増えてきた。さらにSSH主対象卒業生の中には英国の科学雑誌『Nature』に筆頭著者の研究論文が掲載され、昨年度は文部科学省発行の「SSH卒業生生活躍事例集」に広島大学大学院医系科学研究科 助教である卒業生の記事が掲載されている。このように主対象とした総合理学科の卒業生が科学、技術研究の現場に本格的にでて活躍する時期を迎え、SSH事業の成果が確信できる事例が得られるようになったことで、本校で展開してきたSSH事業(グローバルスタンダード8つの力を培う事業)や高校時代に経験し取り組んできたことが、卒業後の進学した大学や社会でどのような影響を与えたかを調査することができるようになった。昨年度は、総合理学科1期生の悉皆調査がほぼ終わり、博士課程を修了した、もしくは修了する年次である「2期～4期生の悉皆調査」に着手している。また、大学生を主な対象とする「SSH事業の効果・成果に関する卒業生アンケート」は、2014年8月に第1回目、2016年度(平成29年1月)に第2回、2018年度から2019年度にかけて第3回調査を実施した。第3回調査はSSH運営指導委員会の指摘を受けインターネット上で回答できるような仕組みとした。

今後の調査では、従来の調査で得られたデータとの比較を主眼に置くのではなく、個々の卒業生の現状を詳しく追跡し、本校でのSSH事業の効果、成果を検証、校内での取り組みをさらに改善するために活用するとともに、第4期指定校としてSSH事業の目的の一つである「次代を担う科学技術関係人材の育成」(科学技術基本計画 平成23年閣議決定)を示す指標を国民に示すことも目的としている。

本格的な卒業生調査の草分けである本校の調査様式は、兵庫県内のSSH指定校にその調査内容や調査項目を配布し参考にして頂いた。また、本校ホームページでも閲覧できるため、他県のSSH指定校からも問い合わせがあり、調査内容等の利用を承諾し参考にして頂いている。

神戸高校 SSH 事業の効果・成果に関する卒業生アンケート



このアンケートは限定です。バーコードをよんで記入ください。

卒業生アンケートへアクセスするための2次元コード 2019年度版

1.2. 調査方法

(1)「SSH事業の効果・成果に関する卒業生アンケート」(第4回調査)

調査範囲と調査時期: 本校総合理学科卒業生71回生～73回生(3学年)を主な対象とし2022年4月から実施する。

新型コロナ感染拡大のため、大学での活動が制限されており、他の大学生と比較する調査法を用いている本校の調査では、十分な検証が行えないと判断し調査を見合わせた。

配付回収方法: 電子メールのアドレスが判明しているものについて電子メールで調査を依頼する。郵送で71回生～73回生にインターネット上で回答できるサイトにアクセスできる二次元コードを送付する。また、例年卒業2年目には第1回の同窓会を行い、その場で調査への協力をお願いしているが、今年度も開催されなかった。

(2)「2期～4期生悉皆調査」

卒業生の一部から同級生の動向を聴取する。2021年6月～7月に本校SAとして協力いただいている卒業生に同期のまとめ役を依頼した。

1.3. 調査内容

(1)「SSH事業の効果・成果に関する卒業生アンケート」

①8つの力の育成に関して: グローバルスタンダード8つの力に対応する各項目の力が充実しているか。

- ・あてはまる＝他の学生と比べ各質問項目の内容が「できる」もしくは「多い」
- ・あてはまらない＝他の学生と比べ各質問項目の内容が「できない」もしくは「少ない」

本校SSHで育成目標としている所属する大学・大学院の他の学生と8つの力の比較を行う。入試等の学力はほぼ変わらないが、高校時代にSSHのプログラムを受けることで8つの力が育成されたかを検証した。

②高校時代体験したSSH事業の中で、現在の自分にとって最も影響を与えたと思うものについて調査した。合わせて具体的にどのようなことが身についたか等を記述してもらった。

③進学後、大学や大学院での研究活動の状況の把握

(2)「2期～4期生悉皆調査」: 勤務先と勤務内容(研究・開発・技術・その他専門職(医師や獣医師など)・事務職を含む一般)の聞き取り調査を行っている。

1.4. 調査の実施について

(1)「SSH事業の効果・成果に関する卒業生アンケート」: 全国的なコロナウイルス感染防止対策のため、全国の大学で遠隔授業となり、他の学生との違いを自己評価する上記①の尺度での調査が困難であるため、今年度予定していた71回生～73回生を対象とする第4回調査を来年度に先延ばしすることとなった。2022年4月から対象を71回生～73回生に広げ実施を予定している。